



「十勝ガールズ農場」の農場長に就く澤居さんと高野さん（左から）。来春開設を目指す。

立の女性専用の農業体験実習施設「レディースファームスクール」で研修した後、それぞれ帯広の農業生産法人で働きながら、新規就農を志していた。

独立には資金面や農地確保がハードルになっていたが、アグリファッションが農家からの農地賃貸の話と結び付け、「ガールズ農場」として実現した。同社は「女性が農場を始めたいとき、後継者以外は（農業者の）結婚相手であるしかないとの雰囲気がある。女性が職業人として認められる状況になく、実現する取り組みに意義があると考えた」としている。

澤居さん、高野さんは「十勝の人のつながりで、すてきなチャンスに出会えた」と感謝する。アグリファッションは、これまで取り組んできた農業体験を含むグリーンツーリズム事業や、キッチンカー等の「幸福駅マルシェ」事業、新規就農支援等のコンサルティング事業などを新しい農業法人に引き継ぐ。

ガールズ農場開設資金の一部は、インターネットを通じて資金援助を募る「クラウドファンディング」で調達する考え。来年2月末までの目標額は50万円で、農地借地料に充てる。

同法人代表の恒雄さんは「どこまで地元や、販売先とつながれるかがポイント。たくさんの人と出会い、役立てるようになりたい」と話している。

特産メークイン地ビール「おいものおもい」発売 J A 帯広大正青年部

2015年12月7日

J A 帯広大正青年部（佐藤日出雄部長、部員75人）が特産のジャガイモ「大正メークイン」を原料に開発した地ビールが完成し、7日発売された。大正メークインの付加価値化やPRを目指した商品化で、同青年部は「発売をきっかけに地域も盛り上がってくれたら」と期待している。

風味生かし好評



販売を開始した地ビール「おいものおもい」と佐藤部長

商品名は「おいものおもい」。部内の公募から、「生産者や部員の思いが入っている。ひらがな表記でメークイ

ンの甘さも表現した」（佐藤部長）と命名した。ラベルはメークインの紫色の花を、大正在住のグラフィックデザイナー藤本健太郎氏がデザインした。

味は良いのに価格が安い規格外ジャガイモの商品化をと検討し、地ビールに着目。2014年に「大正メークイン地ビールプロジェクト」を立ち上げ、帯広ビール（帯広）の協力で開発を進めた。同ビールの醸造担当の十河文英氏がデンプンを抽出する製法でイモの味を生かして仕上げた。

組合員や地域の試飲会では「イモの香りがしておいしい」と評判は上々。今回は約38キロから250リットルを醸造し、瓶（330ミリリットル、648円）の他、帯広市内の居酒屋など3店でジョッキ販売を行う。

その他の販売店（すべてジョッキ、グラスで販売）は次の通り。

▽飯の（大正本町）、ランチョ・エルパソ、大地のあきんど